

木/竹製品製造業の経営状況と直面する課題

コスト構造

木/竹製品製造業は成熟した民生産業であり、市場構造と産業環境が安定しているため、コスト構造の変動は小さい。本産業は、原材料・燃料・水道光熱費がコスト構成比の最大で約69%を占め、具体的には原木、製材品、単板、合板、接着剤、塗料などの生産原料の購入費及び水道光熱費などである。次いで人件費が約18%を占めるが、これは本産業が労働集約型であり、製品製造に多くの作業者を要し、賃金が上昇しているためである。コストの第三位はその他営業費用約9%で、主に機械修理・整備、輸送・倉庫保管、流通・販売促進、保険などが含まれる。機械使用度や設備投資に関連する減価償却費は相対的に低く、1.6%に過ぎない。木/竹製品製造業の固定資産の単位当たり収益は製造業全体を上回っており、この産業が比較的少ない投資で高い収益を得られることを示しているが、これは労働コストの貢献によるものであろう。その他の間接税、賃料、利息支払いはいずれも1%未満である。本産業の経営コスト構造の問題は、人件費と原材料費の毎年の増加、輸入製品との低価格競争により、企業収益率が年々低下していることである。

人材構造

本産業では利益率が徐々に圧迫される中、一部企業が原材料・労働コストの低い国へ移転したり、土地売却による利益が大きいと見込んで土地を売却・転用したりする動きが見られる。結果として本産業の労働力需要が減少しつつある。また、一部事業者は資金不足のため労働環境を改善できず、従業員の離職を招いている。大半の事業者が人材計画や育成プランを持たず、事業のレベルアップや転換への関心が薄く、産業全体に楽観的な展望がないため、若年層が本産業に従事する意欲が低下している。これにより、現在の木/竹製品産業は人材が高齢化し、優れた生産技術や経験が継承されない危機が生じており、産業の持続的発展には不利な状況にある。

生産技術と製品開発

現在国内で経営を続ける木/竹製品業者は、価格面で輸入品と競争することが極めて困難である。既存の生産技術と経験を基礎に、国内の優れた木工機械産業と連携して、設計人材の育成を強化すべきである。生産技術の改良、自動化や省力化プロセスの開発、製品の創造的デザイン開発を進め、現在や将来のトレンドに適合し、デザインが差別化された安全・グリーン・環境配慮型製品を生産し、ブランドイメージを高め、コスト面での劣勢を補う必要がある。

生産管理と品質管理

合板産業は規模が大きく、一貫生産方式を採用しており、生産管理と品質管理制度がかなり整備されている。製品識別体系も整っているため、CNS規格、グリーン建材認証、MITスマイルマーク認証の取得に有利である。一方、その他木/竹製品産業は、経営管理システムが不十分で、生産計画のスケジューリングや工程管理能力が脆弱であり、生産性が低い。品質管理や性能検査能力が不足し、製品規格を熟知できていない。多くの企業において、品質等級や適応用途の識別体系が確立されておらず、今の市場トレンドに追いついていない。